

特別支援教育 算数 数学 徹底講座

2023年度

京都市内算数サークル

11月11日(土) 1:30~4:30 (定刻開始します)

会場 京都教育文化センター 地階公益事業室
(京阪神宮丸太町駅下車5番出口徒歩5分 / 電話 075-771-4221)

参加費 1000円 (京都市内算数サークル会員は800円)
定員 15人

- ※ 1) メールで事前申込みをしてください。万一中止の時は、メールでお知らせします。
- 2) マスクの着用をお願いします。
- 3) 定員に達していない場合は当日参加も可能ですが、万一中止の場合も連絡ができないことをご了承ください。

1:15 受付

1:30

《前半》本日の趣旨説明！
前回1回目『障害者差別を考える』の、
若干の振り返りと、本日の概略。

- ①現在、支援学級（障害児学級）の位置づけが揺れ動く状況の中で、障害児学級の成り立ち（歴史的経緯）を知る。
- ②世界の支援学級等の状況を知り、今後の支援学級のあり方を一緒に討論し考える時間にしたいと思います。

2:50

休憩

3:00

《後半》育成学級の算数の授業を考えるⅡ
本日の趣旨説明！

- ①「敷地感」って何だ！？
*「ここまで」とか「順番」とか「美しさ（バランス）」とか「リズム」とか、こういう感覚を「敷地感」と私は言っています。この「さんすう」を学ぶための元になるといっても良い「敷地感」を、みんなでじっくり考えましょう。
- ②その教材・教具は、本当にその子に生きてるか？「発達段階」の見極め？「生活に生きる算数」って？卒業していった子どもたちの姿と、実践してきたことはどうでした？みんなで話し合しましょう！！

4:30

講師 // 菅田弘久

〈講座について〉

またしても前半は「算数サークル」での話としては、全く「算数」とは関わりの無い内容です。しかし現場の先生方には是非知っておいてもらいたい知識ではないかと。一回目にも強調しましたが、歴史を知ることで「今」がわかるのだと思います。特に「生産性重視」「競争主義」教育が当たり前のようになってしまった今だからこそ、障害児教育とは何か？決して競争原理に乗らない障害児たちの教育の意義とは？さらに「発達障害」児童の増加、関連する「不登校」や「ひきこもり」の問題など、これまでの「障害児教育」の枠の中で扱いきれない課題を持った子どもたちの支援をどうするのか？過去・現在・未来のはなしを、みんなで話し合しましょう！

後半①は、第一回目でも論議したように、「算数」という教科は、障害のある子どもたちに何を目標・目的として教えるものなのか？の延長で、「発達段階」を絶えず気にしながら、「数える？10でまとめる？おっとその前に！」の段階を「敷地感」を元に考えたいと思います。「算数」に至る前段階とは？をみなさんと議論できたらと思っています。

②は、これまでの育成学級での算数の実践の中で「ネタ」と呼ばれるような簡単且つ面白い取組をいろいろ示しながら、その活動が一体どう「算数」的であり、児童にどう響いた（または響かなかった）のか？それがその後どう本人たちに活きたのか（活きなかったのか）、そんなことを赤裸々に報告します。参加者のみなさんは、日々どんなことをされていますか？そしてその子どもたちの「その後」をどこまで知っていますか？一緒に語り合しましょう。

〈申し込み・問い合わせ〉 本田陽一
〒606-8411 京都市左京区浄土寺東田町37-9
TEL・FAX・留守電 075-761-3590
Eメール honda-kyoto@sky.plala.or.jp